

飯塚市(九州圏・沖縄県ブロック)

- ・江戸～：長崎街道の沿いの宿場地として発展。
- ・明治～昭和：石炭産業が隆盛を迎えると筑豊炭田の中心地として栄えた。炭鉱閉山後は大学の誘致を行い学園都市としても位置づけられる。

【計画期間 24年4月～29年3月】

【中心市街地を巡る状況】

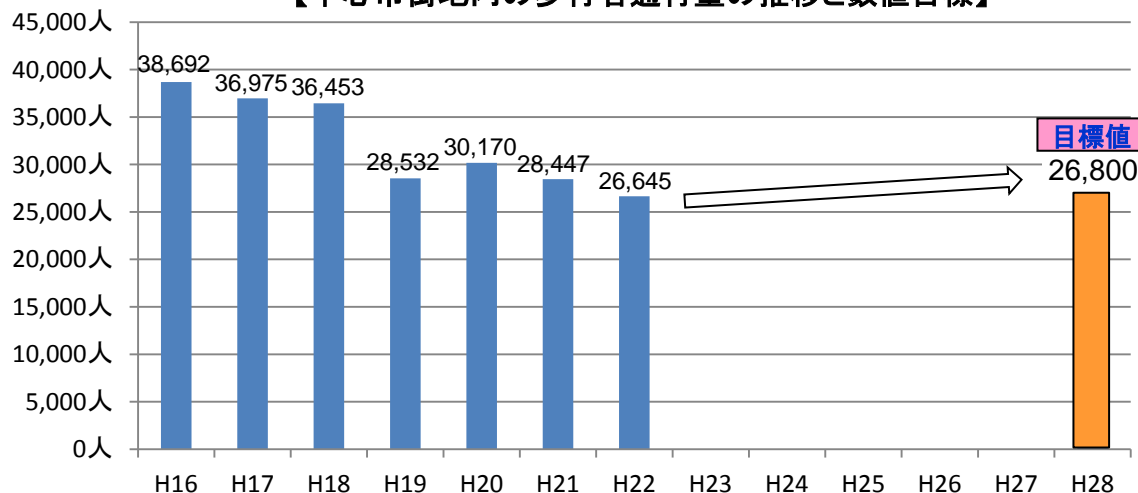
- 平成に入ってからは大規模小売店の郊外出店の影響を受け、中心市街地の商業機能が低下。商店街では高齢化が進む中で後継者も不足。
- バスセンター上層階の長期閉鎖、ダイマル跡地の未活用や商店街の水害・火災等により、中心市街地の空洞化が大きな課題になっている。
- 中心市街地の魅力低下から、歩行者通行量の減少、居住人口の減少など、負の連鎖が発生し、まちの活力が低下している。

【中心市街地に関する指標の推移】

- 中心市街地内の歩行者通行量
H16:38,692人 → H22:26,645人(▲31.1%)
- 商店街の空き店舗率
H14:18.8% → H22:30.4%(11.6%増加)

目標	指標	基準値(H22)	目標値(H28)
賑わいと憩いのあるまち	歩行者通行量(平日・休日)	26,645人	26,800人
笑顔で暮らせるまち	中心市街地の居住人口	3,696人	3,820人

【中心市街地内の歩行者通行量の推移と数値目標】



■賑わいと憩いのあるまち

⇒①本町東地区土地区画整理事業、②吉原町1番地区第一種市街地再開発事業、③戦略的逸品店舗誘致事業

■笑顔で暮らせるまち

⇒④ダイマル跡地事業地区暮らし・にぎわい再生事業、⑤街なか交流・健康ひろば整備事業 など

飯塚市中心市街地活性化基本計画の事業概要

賑わいと憩いのあるまち

①本町東地区土地区画整理事業
 ○本町東地区優良建築物等整備事業
 商店街内で発生した火災跡地及び隣接商店街に分譲マンション、子育て支援施設、公設市場等の商業施設を複合的に整備。相互の連携を図り、商・住一体となったコミュニティを形成する。

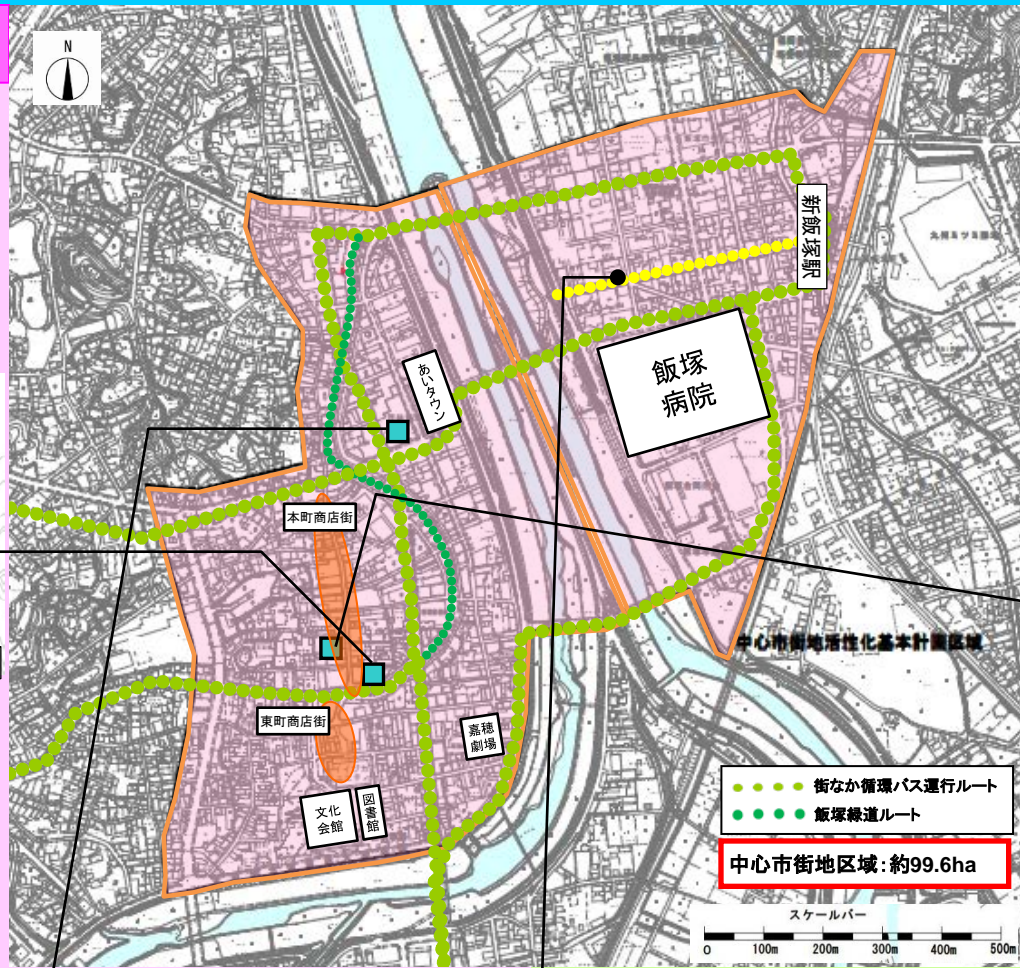


○子育てプラザ整備事業
 子育て支援の拠点を整備し、子育て世帯へのサービス増進、安全安心な居住環境を形成する。
 ○商・住一体コミュニティ形成モデル事業
 商業機能と居住の連携を進め、地域密着・交流・貢献型の商業推進を図る。

②吉原町1番地区第一種市街地再開発事業
 老朽化したバスセンターを、分譲マンション、看護高等専修学校、訪問看護ステーション、飯塚医師会検診検査センターを設置した複合機能ビルとして再生。



③戦略的逸品店舗誘致事業
 ○戦略的逸品店舗起業者支援事業
 空き店舗に消費者ニーズに即した集客力のある店舗等を誘致し、魅力ある商店街の形成を図る。



笑顔で暮らせるまち

④ダイマル跡地事業地区暮らし・にぎわい再生事業
 商店街内の老朽化した空きビルを取得・解体し、賃貸住宅、街なか交流・健康ひろばを設置することにより、高齢者から、子育て世代までが交流できるスペースを整備する。



⑤街なか交流・健康ひろば整備事業
 ○健康空間創出事業
 ダイマル跡地事業によるコミュニティビルや商店街内の空き店舗等を活用し、運動講座や健康診断等を実施する。



○中心市街地歩行者空間整備事業
 ○飯塚緑道整備事業
 歩いて暮らせるまちのインフラ整備として歩道等を高質空間化、歩行者の安全・利便性や回遊性の向上を図る。



○街なか循環バス運行事業
 中心市街地内を循環するバスを運行し、居住者と来街者の利便性と回遊性の向上を図る。(図中緑点線)